



ひな祭り

たていし園瓦版

<http://www.tateishien.co.jp>
info@tateishien.co.jp

VOL. 30
2月1日号



「春茶物語」入荷しました。

毎年好評の春待ち茶が、今年「春茶物語」として、今年も入荷しました。

一足早く春を感じさせるパッケージ。鮮やかな水色。味わいのある煎茶です。

まだまだ寒い日も多く、お茶の恋しいこの時期におすすめです。

・春茶物語(鹿児島県産)

・840円/100g

お茶菓子の紹介

お茶うけにおすすめ。当店取り扱い茶菓子のご紹介。

・黒かりんとう・231円/120g

お茶専門店のみの販売。この黒かりんとう。

大好評です。

・おからちゃん・420円/120g

「おから」でできた「おからちゃん」塩味の揚げ菓子です。

少し固めの煎餅です。

・しぼり豆・735円/80g

選りすぐりの丹波黒豆を使用。そのままおいしく召し上がれます。



※黒かりんとうとしぼり豆は期間限定商品です。品切れの際は御了承くださいませ。

ひな祭り豆知識

ひなまつり＝桃の節句の起源は、平安時代までさかのぼります。昔の日本には五つの節句があつたそうです。

- ・人日(じんじつ) ← 一月七日「七草がゆ」
- ・上巳(じょうし) ← 三月三日「桃の節句」
- ・端午(たんど) ← 五月五日「端午の節句」
- ・七夕(たなばた) ← 七月七日「七夕祭り」
- ・重陽(ちやうよう) ← 九月九日「菊の節句」

「菊の節句」は現在はなくなくなっています

この節句という行事が貴族の間では季節の節目の身の汚れを祓う(はらう)大切なものでした。

日にちからみてもわかるように「上巳の節句」が、現在の「ひなまつり(桃の節句)」になつています。

平安時代、上巳の節句の日は薬草を摘んで、その薬草で体のけがれを祓つて健康・厄除けを願つたのです。

そして、この節句の行事と宮中の、紙のきせかえ人形で遊ぶ「せいな遊び」と融合。自分の災厄を引き受けてくれたその紙人形を川に流す「流し雛」と発展します。

室町時代になると、この節句が三月三日に定着。そして、紙の雛が豪華なお雛様を飾つて宮中で盛大にお祝いをするようになります。それが宮中から、武家社会・裕福な家庭や名主の家庭へと広がっていき、今のひな祭りの原型が完成したのです。

ひな祭りは、赤ちゃんの健やかな成長と厄除けを願う行事です。

お雛様を飾り、お祝いの膳をいただいたら、最後はやっぱりお茶！ですね。

お茶の雑学

「お茶の種類」

お茶の種類はたくさんありますが、すべて同じツバキ科の茶の木です。

製造法で大別すると、**緑茶**(不発酵茶)と**紅茶**(発酵茶)と**ウーロン茶**(半発酵茶)の三種に分けられます。

よく「緑茶ください」と言われますが、緑茶とは、一般に思われている「日本茶」全般のことになります。

「緑茶」はさらに煎茶や、深蒸し茶、玉露、茎茶、番茶、ほうじ茶、玄米茶、かぶせ茶、玉緑茶、粉茶、抹茶等に分けられます。

なかでも**煎茶・深蒸し茶は日本茶の代表で最も流通量が多く、全体の85%を占めます**

当園で人気の高い「群竹(むらたけ)」は茎茶ですが、茎茶は地方によってかりがねとか、じく茶とか白折などと呼んだりもします。

茎茶は玉露や煎茶などの仕上げ工程で、葉と茎に分けられた茎の部分が主のお茶です。

ちなみに丸まった茶葉が特徴的な「芽茶(めっちゃ)」は同じく仕上げの工程で、やわらかい新芽や葉の先端が切れたものです。

いずれも手づくりな値段のわりに味や香りは上級茶とほとんど変わりありません。



編集後記

節分にバレンタインデーにひな祭り。何年も豆まきなどしていませんが小さい子供がいると今年はしょうという気になります。まだ小さいですが、由来や意味なども話してあげられたらいいかなと思います。